

# 平成27年度事業報告書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

特定非営利活動法人 東京養育家庭の会

## 1. 総体として

本年度は、特に乳児をめぐる家庭養護の推進のあり方について各方面から多くの声が聞かれた年であった。一時保護の形で里親を活用した乳児の家庭養護の試みがなされ、里親が乳児を受託する可能性が芽生えてきた。実際に乳児を受託した里親の声としては概ね好評であった。

家庭養護の推進そのものについては、東京都の場合、統計からだけ見ると登録里親数が伸びている割には、実際に児童を委託されている里親数は伸び悩んでいるという現実がある。

当会の年間活動は概ね計画通り実施することができた。ユースのシドニーIFCO 大会への派遣などは、当会としては日本財団の助成金を受けて行うなど画期的なことであった。里親大会などで里母の会が持たれ女性の立場と感覚を世の中に訴える動きも始まった。今後とも里母とユースの動きに期待していきたい。

### ① 養育家庭と子ども達への支援の充実。

- i. 愛着や発達に課題を持つ児童の養育の悩みや疑問を、サロンなどで話題にし易くなり関係者の間で課題を共有できるようになってきている。
- ii. 東京都児童福祉審議会(専門部会)の臨時委員として里親の立場から意見を述べる場が与えられ、これからの施策の方向性を議論することができた。
- iii. 興津臨海(幼少期事業)は、集団の規模が大きくなり効果に疑問の声が聞かれた。山キャンプ(学童期事業)はT学園と共同で実施し里子OBの協力も得て楽しい催し物となった。

### ② ユースの支援

- i. 「シドニーIFCO大会」へ4名派遣でき、見聞を広めユース同志の意見交換ができた。
- ii. 「ユースの集いin長野」に6名が参加し、リーダー、実行委員として活躍していた。
- iii. 中高生への対応は、巣立ちのフェスティバル、自立講座も内容が充実しており好評であったが、東京からの参加里子が少なく、今後の取り組みに課題を残した。

### ③ 研修事業の充実

一部の研修を夫婦で参加する方式として、里親の協力も得ながら実施することができた。また、里親によるグループ討議を任意参加で試行したが、参加者は伸び悩み気味であった。

### ④ その他

- i. 養子縁組里親などとの連携は研修の場を通じて交流のきっかけを模索した。また、会員の拡大については各支部を中心に関係機関と連携して働きかけを進めた。
- ii. 会務の執行に当たっては、運営会議を毎週開催し役割分担を明確にした取り組みを進めた。より多くの理事と会員が会の執行に参加できるようにする工夫の余地を残した。
- iii. 理事の支部訪問は内容のある話ができて効果のある企画であった。併せて、乳幼児への取り組みのヒアリングを実施した。支部長会では活発な意見交換が行われた。
- iv. 全国里親会と関東甲信越静里親研究会にはさまざまな機会に参加し、それらの運営に貢献することができた。そこで得た情報を当会の運営に反映することができた。2年目を迎えた里母の会には役員を派遣するとともに、2名の里母が一般参加することができた。
- v. ワーキンググループとしては、東京都児童福祉審議会に向けて理事と支部長を中心に論議の場を設けて検討をした。

## 2. 養育家庭制度への要望について

各支部からの会員の声等を反映させながら毎年継続的に要望を行い、東京都議会各政党への説明も行ってきた。その結果、都および国の施策を併せて、①小学生の学習指導費加算、②特別学習指導加算(①、②:平成27年度から)、③認証保育所等費の委託費対象化、④交流期間の経費補助、⑤レスパイト年間利用可能日数を1家庭につきから児童1人につきに改訂(③、④、⑤:平成28年度から)、が実現した。引き続き要望の実現に努める。

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
(A) 養育家庭に対する支援事業	①全体会交流会事業 東京都と共催で養育家庭の交流を開催し、こども達同士の交流	11月8日	葛西臨海水族園	16名	全養育家庭 大人 59名 こども 59名	34
	②里親交流事業 前年度に続き、社会へ巣立たせた里親の集いを開催	3月6日	中野サンプラザ	4名	里親 4名	41
	③里親促進事業 22年度から全国里親会里親促進の補助金が廃止された関係から、支部活動の財源確保	6月5日	各支部	3名	各支部	285
	④つなぎ資金の運営 里子の進学・就職に必要な資金の一時的立替	随時	養育家庭連携室	1名	2家庭	特別会計
	⑤東社協との連携（児童養護施設） 評議委員会、里親制度支援委員会、友愛互助会、自立スタート支援委員会に参加します。児童養護施設との交流を進めた。	随時	随時	3名	東京都の全養育家庭	
(B) 養育家庭で育つ子どもへの支援事業	①自立支援事業（中高生） ・18歳後の生活の確保に向けて様々な試みをした。	2月28日	資生堂汐留ビル	1名	養育家庭で育つ高校生 1名	0
	②こども支援事業（幼小生） ・幼少期事業（興津臨海〈小1～3〉） ・その他） ・学童期事業（山キャンプ）	8月1～3日	千葉県興津	2名	小学生4名	39
		8月15日～17日	町田市大池沢青少年センター	7名	小学生7名	47
	③招待行事 a. サマーキャンプ・デイキャンプの実施。（アサヒKIDSプロジェクトと共催）	5月24日	デイ・キャンプ 葛西臨海公園	2名	小・中学生 6名	10
		11月21日	埼玉県サイボクハム	2名	小・中学生 4名	
		8月8・9日	久里浜花の国	2名	小・中学生 12名	
	b. その他 スポーツ観戦・観劇・音楽鑑賞・スポーツ体験の実施（FC東京、オンワード樫山、各種団体からの招待等）	随時	各種団体の招待により異なる	2名	養育家庭で育つ里親子 約700名	

(C) 養育家庭及び養育家庭制度に関する 情報収集及び情報提供事業	① 第61回 ・関東甲信越静里親研究協議会 ・大会の企画に参加	7月11日 4月5日 7月11日 1月9日	長野	2名 2名	当会の 養育家庭 大人 10名 こども 6名 ユース 6名	105
	② 第61回 全国里親大会	10月24～ 25日	鹿児島県	3名	当会の 養育家庭 大人 5名	63
	③ 関係機関との交流 (全国児童養護施設協議会・ 東社協児童部会・等)	7月6日 1月23・ 24日	都内	3名 1名	里子 10名 里親 12名 2名	51
(D) 養育家庭に関する普及広報事業	①会報の発行  会独自の会報を発行	7月 12月 3月	都内	3名	会員及び 関係機関  350部×3	62
	① 養育家庭制度に関するP R養育家庭制度及び会の 活動紹介し、広く里親制 度を広報するため、ホー ムページ、リーフレット、 ポスター作成	随時	都内	5名	都内全域	27
	③ 勉強会 里親に対する研修・里親及び里 親関係者、一般に対する勉強会 の開催	5月17日	都内	3名	養育家庭 50名	26
(E) その他事業	① その他 ・随時要請に応じて様々な企 画を実施					

(F) 養育家庭に対する教育事業 (受託事業)	<b>里親養育力向上計画総合プログラム事業</b>					特別会計
	① 里親研修事業	随時 (別紙参照)	都内	11名	東京都の 里親家庭	
	② 『Tokyo 里親 net』を、当会 と東京都が共同で発行し、登 録里親、会員、関係者に配布	毎月1回 発行	連携室	6名	東京都の 里親家庭	
	② ホームページの管理	随時	連携室	2名		
	③ 普及啓発活動 都や区市町村と協力し、養 育家庭制度の普及啓発のた めの体験発表等	随時	児童相談所 都内全域	15名		
	<b>養育家庭支援事業</b>					
	① 支援員連絡会・勉強会	年8回	児相センター	2名	養育家庭支援 員22名	
	② 養育家庭への支援 各児童相談所に支援員を 配置し、地域の児童相談所 と連携して養育家庭に対 する支援活動。	随時	各児童相談所 他	22名	養育家庭とし そこで暮ら育 つこども	